

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年3月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの報告が、依然として続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代を中心として幅広い年齢層で発生しており、注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年3月期に報告された全数把握疾患>

E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
急性脳炎	2件	梅毒	19件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	百日咳	1件

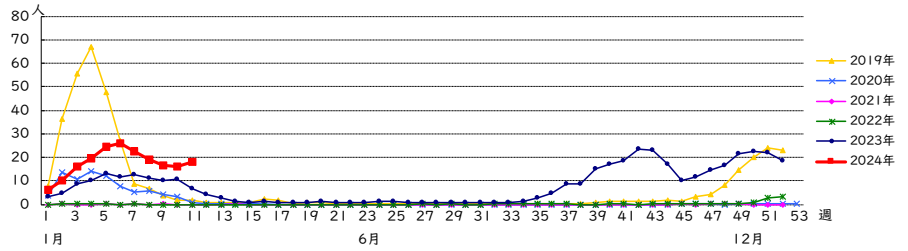
- 1 **E型肝炎**:50歳代～70歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
- 2 **レジオネラ症**:40歳代～80歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件です。
- 3 **アメーバ赤痢**:40歳代～60歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 4 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:40歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 5 **急性脳炎**:いずれも10歳未満で、病原体は不明、感染経路等も不明です。
- 6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:70歳代～80歳代で、血清群はA群が1件、B群が1件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代～50歳代で、性的接触(同性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
- 8 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:90歳代(ワクチン接種歴1回)で、感染経路等不明です。
- 10 **水痘(入院例に限る)**:90歳代(ワクチン接種歴不明)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 11 **梅毒**:20歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者4件です。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間13件、同性間1件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 12 **百日咳**:10歳代(ワクチン接種歴4回)で、感染経路等不明です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年 第9週	2月26日～3月 3日
第10週	3月 4日～3月10日
第11週	3月11日～3月17日

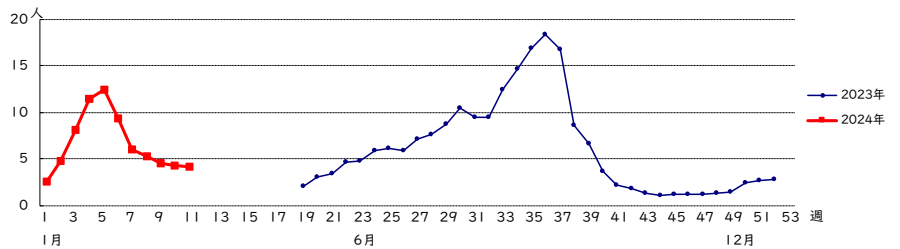
1 インフルエンザ

2023年第39週に流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。2020年以降の動向と比較すると報告数が多く、第11週は18.22です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報26号をご覧ください。



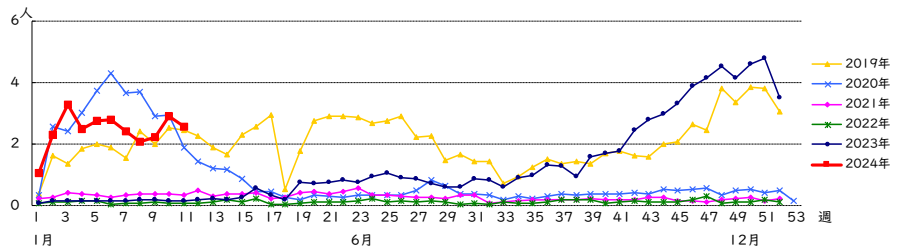
2 新型コロナウイルス感染症

2024年第1週以降、増加傾向でしたが、第6週以降は減少傾向に転じ、第11週は4.19です。



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第4週以降、過去5年と比較しやや多い状態で推移しています。第11週は2.55です。



4 性感染症(2024年2月)

性器クラミジア感染症	男性:22件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性:12件
尖圭コンジローマ	男性: 5件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:14件	女性: 3件

5 基幹定点週報

	第9週	第10週	第11週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第9週～第12週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件、内科定点7件、基幹定点4件、定点医療機関外1件でした。

4月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離21株及び遺伝子12件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果（2024年第9週～2024年第12週）

分離・検出ウイルス	主な臨床症状等			
	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	ウイルス感染症
インフルエンザウイルス AH1pdm09	- 1			
インフルエンザウイルス B型（ビクトリア系統）	20 -			
アデノウイルス 3型		1 1		
ヒトメタニューモウイルス			- 5	
ボカウイルス			- 1	
ヒトコロナウイルス*		- 1	- 1	- 1
RSウイルス			- 1	
合計	20	1	0	0
	1	2	8	1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

*ヒトコロナウイルス:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

4月期(2024年第9週～第11週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症3件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件でした。非定点から薬剤耐性緑膿菌感染症2件でした。保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症2件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症17件、レジオネラ症1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2件でした。

「分離同定」の検査依頼はありませんでした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は発熱・咽頭炎等2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024年第9週～第11週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 A群溶血性レンサ球菌 TUT (1)、A群溶血性レンサ球菌 T1 (1)、G群溶血性レンサ球菌 (1)	
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3 <i>Staphylococcus aureus</i> (3)	
	非定点	薬剤耐性緑膿菌感染症	2 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> (2)	
		腸管出血性大腸菌感染症	2 O157:H7 VT2 (1)、Og113:Hg21 VT2 (1)	
	保健所	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	17 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (16)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
レジオネラ症		1 <i>Legionella pneumophila</i> SG1(1)		
侵襲性インフルエンザ菌感染症		1 <i>Haemophilus influenzae</i> a型 (1)		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1 B群溶血性レンサ球菌 (1)		
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		2 <i>Enterococcus faecium</i> (2)		
小児サーベイランス		材料	臨床症状	検体数
小児科定点	咽頭ぬぐい液	発熱、咽頭炎、発疹、紅斑	2	A群溶血性レンサ球菌 T4 陽性 (1)、培養陰性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】